

病害虫発生予察情報予報第 9 号

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要

作物名	病害虫名	12月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
イチゴ(本圃)	ハダニ類	並	やや少	205~206	 イチゴ うどんこ病
	うどんこ病	やや少	並	195~197	
	灰色かび病	並	少	198~199	
	アブラムシ類	並	並	210~211	
特記事項 1. ハダニ類 天敵(カブリダニ類)の放飼は、有効薬剤によりハダニの密度を0頭レベルに抑えた後に行う。 2. うどんこ病 一部の圃場で発生が認められる。約10~14日間隔の薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせで防除する。 3. 薬剤散布におけるミツバチへの危害防止 薬剤散布においては巣箱を圃場外に持ち出し、ミツバチがハウス内に入らないようにする。また、ミツバチが活動する午前中の散布は控える。					
トマト	葉かび病	やや少	少	222~223	 トマト 灰色かび病
	灰色かび病	やや多	やや多	217~218	
	コナジラミ類	やや少	少	149~151 225~227	
特記事項 1. 疫病 一部圃場で発生が認められる。昨年度発生が多く、園内の菌密度は高いと考えられるので発生に注意する。発生を認めたら、罹病部位を取り除き圃場外で適切に処分するとともに、初期防除を徹底する。 2. 灰色かび病、すすかび病 一部圃場で発生が多い、こまめな換気や循環扇を活用するなどして適切な湿度管理に努めるとともに初期防除を徹底する。					
キュウリ	べと病	並	並	175~176	 キュウリ褐斑病
	うどんこ類	やや少	並	173~174	
	褐斑病	やや多	並	178~179	
	アザミウマ類	並	並	152~156 187~188	
	コナジラミ類	並	やや多	186~187	
特記事項 1. ウイルス病媒介虫(ミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミ) ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する(平成28年9月12日付け病害虫対策資料第11号参照)。なお、植え替え時にはキルパーを用いて古株を完全に枯死させ、媒介虫(成幼虫)の死滅処理を行うとともに、蛹の死滅を図るため、2週間程度の蒸し込み処理期間を設ける。 2. 褐斑病 調査圃場の多くで発生が見られる。発生が見られる圃場では、上位葉への進展を防ぐため、薬剤による防除を行う。					

作物名	病虫害名	12月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
ナス	すすかび病	並	並	232~233	 すすかび病
	灰色かび病	並	並	231~232	
	菌核病	並	やや多	234	
	アザミウマ類	並	やや多	238~239	
	コナジラミ類	やや少	やや少	239~240	
特記事項					
1. すすかび病 本病の発生を認めた場合、ダコニール 1000 (TPN水和剤) を散布し、約1週間後にベルコートフロアブル (イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤) を散布する。これを約1ヶ月間隔で実施することで本病の発生を低く抑える。					
タマネギ	べと病	並	並	278~280	
	ボトリチス葉枯症	並	並	280~281	
特記事項					
1. べと病 本圃での発生を抑えるために苗床で防除を徹底するとともに本圃移植後から予防防除を行う (平成 28 年 11 月 29 日付け病虫害対策資料第 19 号 参照)。					
アスパラガス	特記事項				
1. 来作に向けた褐斑病、斑点病、茎枯病、ハダニ類の対策 これらの病虫害は発病茎葉、刈株等で残存する。茎葉刈取後、灌水チューブに付着したハダニ類をほうき等で除去するとともに、残さおよび刈株を除去した後、バーナー焼却を徹底する。					

作物名	病虫害名	12月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
キク	白さび病	やや少	やや少	380~381	 白さび病
	アザミウマ類	やや多	多	384~385	
	アブラムシ類	並	並	386~387	
	ハダニ類	やや少	少	385~386	
	ハモグリバエ類	やや少	並	388~389	
	チョウ目害虫	並	並	387~388	
特記事項					
1. 白さび病 発病後の防除は難しいため、薬剤の定期的な散布による予防防除を行う。					
2. アザミウマ類 一部でクログハナアザミウマの多発生圃場が認められる。圃場内の発生状況をよく観察し、発生初期からの防除を徹底するとともに、その後も発生が認められる圃場では定期的に防除を行う。 ミカンキイロアザミウマについては、キクえそ病・茎えそ病のウイルスを媒介するため、発生初期からの防除を徹底するとともに、発病株は早急に抜き取る。					

注1) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注2) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
 4 ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

12 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 12 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 3 ヶ月予報（平成 28 年 11 月 25 日）を基に、「気温：平年並」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3 ヶ月予報における 12 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	30	30 (7.6°C)	40	並
降水量	30	40 (47.7 mm)	40	並

Ⅲ. 12月の予報

イチゴ（本圃）

（巡回調査 12 圃場、
調査日：11月18日～21日）



巡回調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：2.0%（平年7.4%、前年12.0%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：少（一）

②病害虫防除員による調査（6圃場）

2圃場で発生確認、発生株率は4.0%（一～±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場によって薬剤の感受性が異なるため、防除効果を確認しながら、防除薬剤を選定する。

(2) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的に防除を行う。

(3) その他は特記事項を参照。

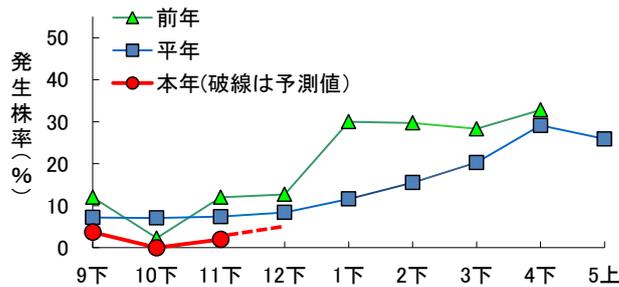


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：6.0%（平年15.7%、前年6.7%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

②病害虫防除員による調査（6圃場）

2圃場で発生確認、発生株率は4.0%（一～±）

(2) 12月の気象予報

並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

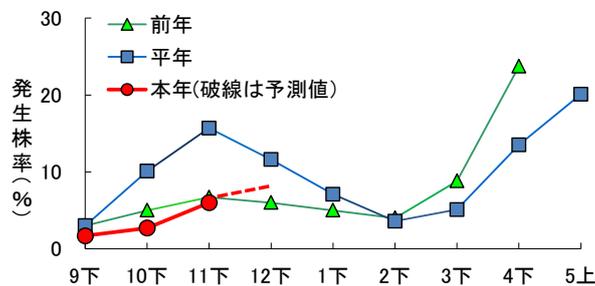


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

トマト

巡回調査（8圃場）
11月17～24日

1. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：1.9%（平年0%、前年0%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）



巡回調査圃場の様子

②病害虫防除員調査 (6 圃場)

発生を認めなかった (±)

(2) 12 月の気象予報

並発生条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発病果や発病葉は除去し、発生初期からの防除を徹底する。

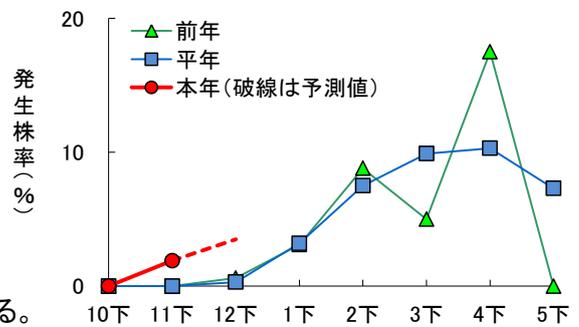


図1 トマト灰色かび病の発生推移

2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない (前年より少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率: 2.5% (平年 5.0%、前年 7.5%)

平年比: やや少 (一~±) 前年比: やや少 (一~±)

②病害虫防除員調査 (6 圃場)

2 圃場で発生確認、発生株率は 2.5% (一~±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) タバココナジラミは黄化葉巻病を媒介するため、発生初期の防除を徹底するとともに、発病株は早急に抜き取り、適切に処分する。

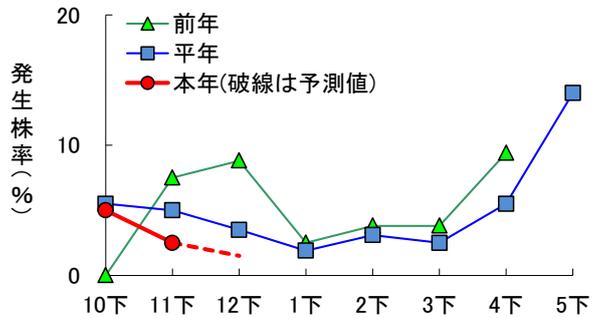


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

キュウリ

巡回調査 (8 圃場)

調査日: 11 月 18 日~21 日

1. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率: 30.6% (平年 15.0%、前年 15.0%)

平年比: やや多 (±~+) 前年比: やや多 (±~+)

(2) 12 月の気象予報

並発生条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。



巡回調査圃場の様子

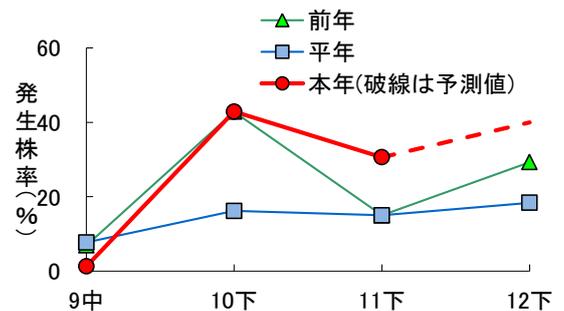


図1 キュウリ褐斑病の発生推移

2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率: 3.8% (平年 5.4%、前年 2.5%)

平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

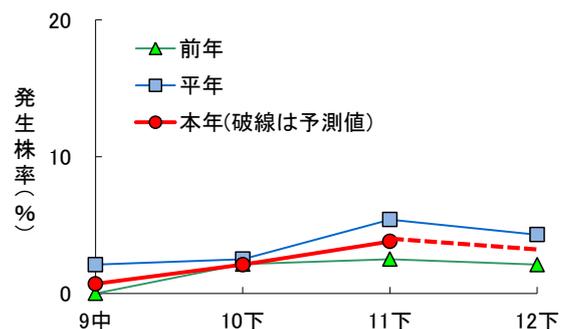


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

ナス（促成）

巡回調査（7圃場）
11月17～24日



巡回調査圃場の様子（ナス）

1. すすかび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率0%（平年0.3%、前年0%）
平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）
 - ②病害虫防除員調査（4圃場）
2圃場で発生確認、発生株率は5.0%（+）
 - ③12月の気象予報
並発生の条件（±）
 - (2) 防除上注意すべき事項
 - (1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
 - (2) その他については特記事項参照。

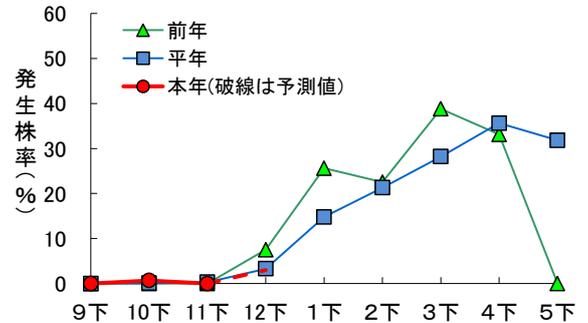


図1 ナスすすかび病の発生推移

2. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率26.4%（平年24.8%、前年19.4%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）
 - ②病害虫防除員調査（4圃場）
発生株率：5.0%（-～±）
 - (2) 防除上注意すべき事項
 - (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
 - (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

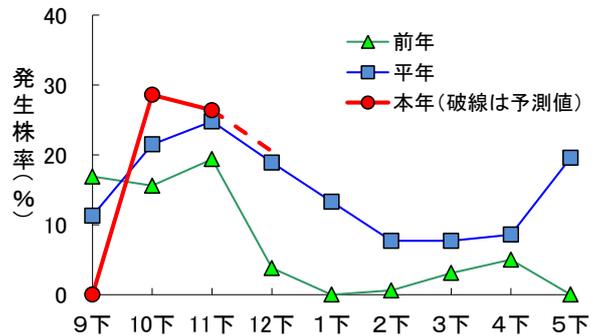


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

3. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない（前年よりやや少ない）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率22.1%（平年40.6%、前年31.9%）
平年比：やや少（-～±） 前年比：やや少（-～±）
 - ②病害虫防除員調査（4圃場）
発生株率：2.5%（-）
 - (2) 防除上注意すべき事項
アザミウマ類の項目参照。

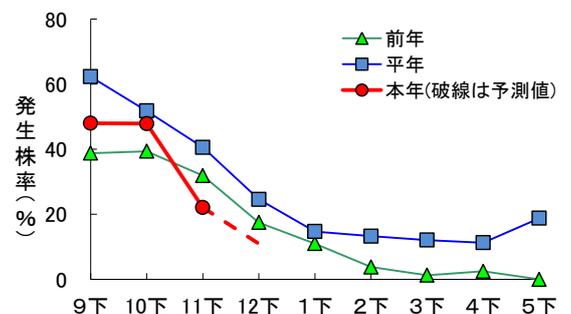


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

キク

巡回調査 (8 圃場)
11月17日 ~ 24日



巡回調査圃場の様子(キク)

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない (前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率0% (平年1.8%、前年2.3%)

平年比：やや少 (一~±) 前年比：やや少 (一~±)

(2) 12月の気象予報

並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。

(2) 施設内が多湿にならないように換気を図る。

(3) その他については、特記事項参照。

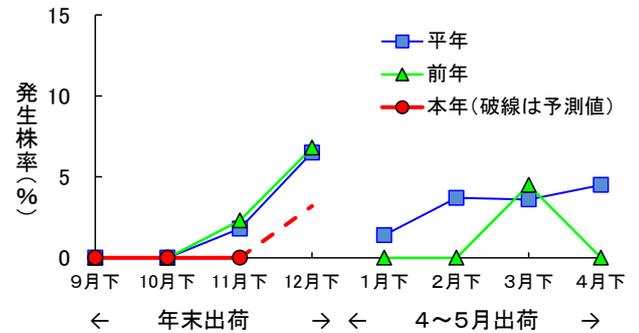


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類 (クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率5.8% (平年3.2%、前年0.8%)

平年比：やや多 (±~+) 前年比：多 (+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

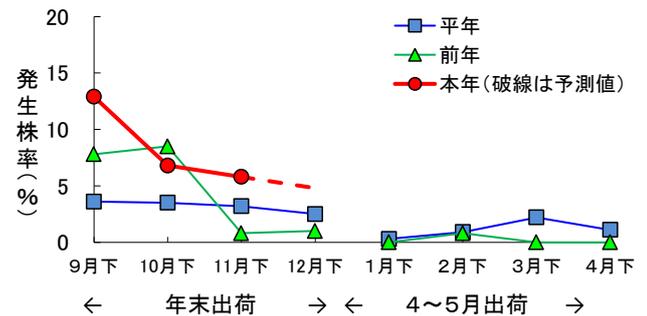


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない (前年より少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査

発生株率1.3% (平年8.3%、前年9.5%)

平年比：やや少 (一~±) 前年比：少 (一)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本種は薬液のかかりにくい葉裏や下位葉に寄生していることが多いので、薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

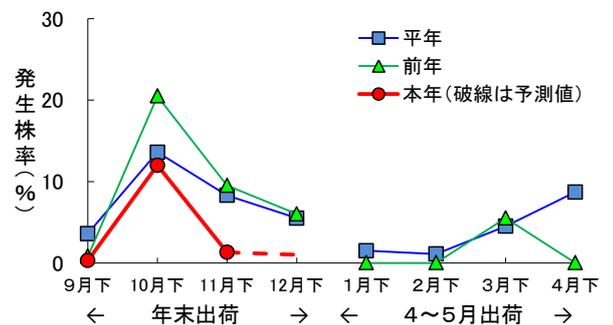


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫

主に10月26日～11月23日までに発表されたもの

警報・注意報（重要な病害虫の多発生が予想され、早めに防除する必要があるときに発表）

作物名	病害虫名	九州・沖縄・山口		その他の都道府県	
		注意報	警報	注意報	警報
キャベツ	黒腐病			11/1 愛知県	
ハクサイ	アブラムシ類			11/1 愛知県	

特殊報（新たな病害虫が発生した時などに発表される）

作物名	病害虫名	発表日及び発信元
野菜	トマト	クロテンコナカイガラムシ 11/7 山口県
	ニガウリ	アシビロヘリカメムシ 11/10 高知県
	コリアンダー	斑点細菌病（仮称） 11/8 静岡県
野菜・花き共通	ホオズキ、ナス	タバコノミハムシ 11/1 愛知県
花き	ホオズキ	ナスコナカイガラムシ 11/7 大分県
	ジニア（百日草）	えそ輪点病（仮称）（CSNV） 11/4 神奈川県

農薬の適正使用を徹底しましょう！

◎農薬を使用する際は、事前にラベルをよく確認しましょう。

農薬の登録内容は変更されることがあります。使い慣れた農薬でも、ラベル等で登録内容を確認して使いましょう。

◎農薬を散布するときには、農薬の飛散に注意しましょう。

使用する農薬が、その周辺で栽培されている農作物で登録（適用）がない場合には、特に注意する必要があります。

◎防除器具は十分洗浄しましょう。

前回使用した農薬をタンクやホース内に残したまま、別の作物に使用すると国が定めた基準値を超過する恐れがあります。



（佐賀県・佐賀県植物防疫協会作成パンフレットから抜粋）

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
 Mail nougyougijyutsu@pref.saga.lg.jp